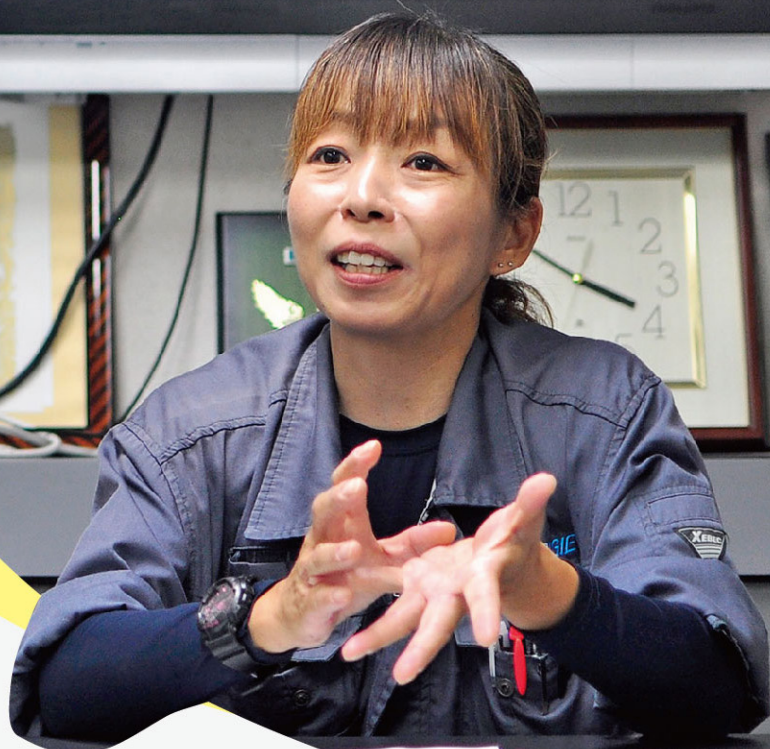
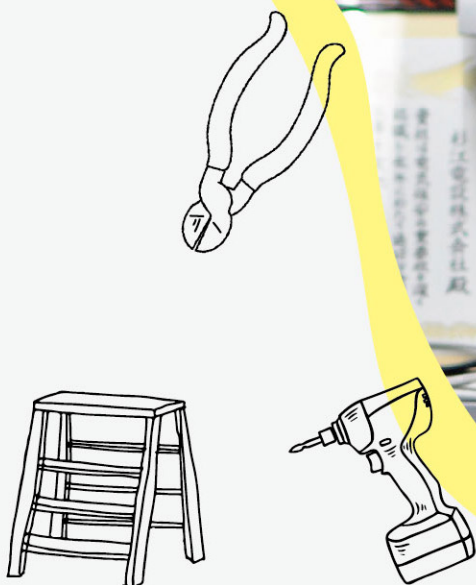
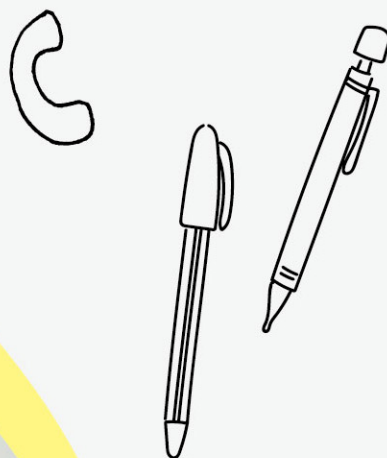




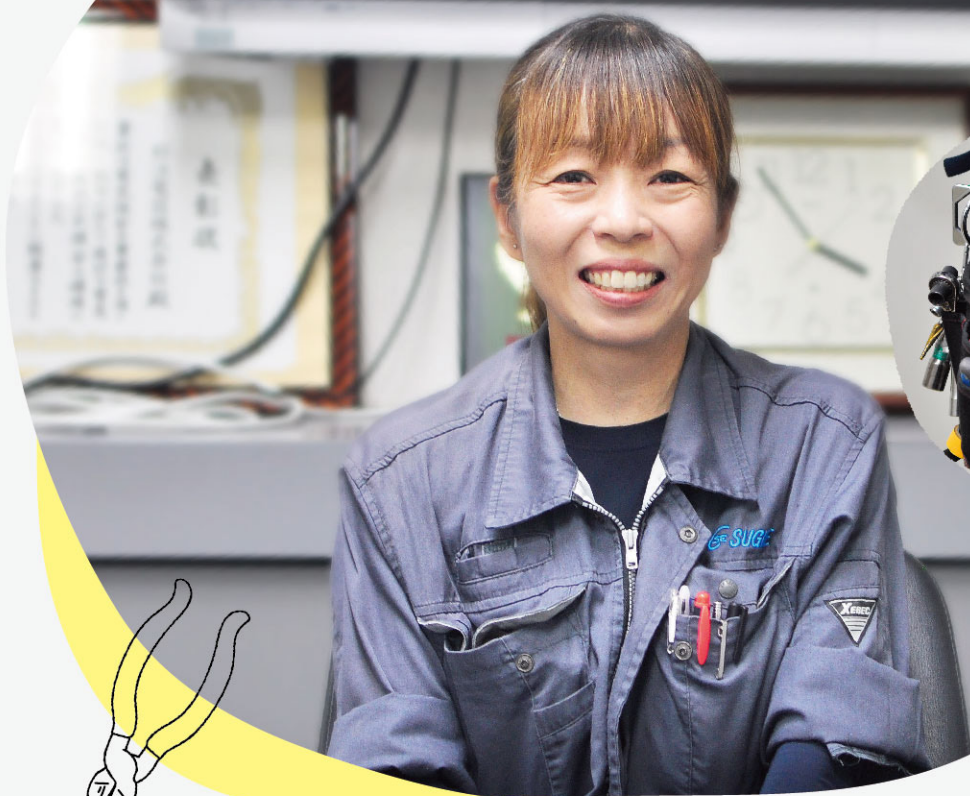
特集

「蒲郡で働く・輝く女性」

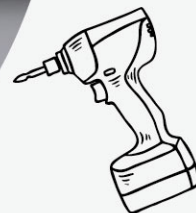
「蒲郡で働く・輝く女性」を特集として掲載いたします。これは蒲郡市産業振興ビジョンの示す取組み〔基本戦略01〕柔軟性の強化→〔施策の方向性〕ダイバーシティ経営の推進→〔具体的な取組〕女性活躍の推進（左ページ[P.51] 参照）に準拠しております。



NISHIMURA Youko



腰道具は頼りになる相棒



入社はなりゆき、でも今はもっと勉強して、
たくさんのお客さんを笑顔にしたい。

杉江電設株式会社
電設事業部 営繕課 主任
第一種電気工事士
西村 陽子 さん

—入社のきっかけから教えてください。

元々は知人の紹介がきっかけです。最初は蛍光管などの配達担当からはじめ、やがて週に2日だった勤務日数が週4日になり、最終的には週5日に。2008年に誘われて正社員になりました。

—電気工事士になられたのはどういうところから？

配達でお客様のところに伺うんですけど、そうすると、しばしば電気に関するお尋ねごとなどを私に話されるんです。次第に、質問や困りごとに即座に答えてあげられない自分を悔しく思うことが増えてきてまして。一方で、腰道具をつけて現場に出ていく社員の皆さんを見て、カッコいいな、自分も腰道具つけてみたいと思うようになって。正社員になって3年目の2011年、会社にナイショで電気工事士の資格試験に挑戦しました。

—ナイショで、ですか？

はい。落ちたら恥ずかしかったので（笑）。それで、学科試験を通過したものの、実技試験があるのにここまで現場経験はゼロ。『学科通っちゃったんで』と素直に話して、先輩に色々教えてもらったり、現場の残材や廃材を持ち帰って家で練習させてもらったりしました。ペンチやニッパーの使い方すらよくわかっていない状態でしたから。

結果、無事ストレートで第2種電気工事士の資格を取得し、社内で唯一の女性電気工事士となりました。その後は現場経験を積みながら、令和2年に第1種電気工事士の資格を取得しました。主に担当しているのはスイッチやコンセントの増設や照明器具等のメンテナンスといった、既設の保守や修繕。引き込み工事や仮設の電気工事・配線工事もしています。

—元々はどのようなお仕事をされていたのですか？

新卒で入ったのは金融機関です。でも、6ヶ月で辞めてしまいました。今で言うとパワハラのようなことで、直訴したら左



遷されたみたいなの。時代も違いますが、結局自分には合わなかったんじゃないかな、と思います。ただ、今の仕事も選んで入ったというよりも、本当に成り行きで。入社するときも、ただの掛け持ちのパートのつもりでしたから。それが、今ではお客様の困りごとを解決できるととても嬉しいし、大きなやりがいを感じています。縁かな、と思いますね。

—女性の少ない職種ですが、困難を感じることはありますか？

女なののでできるの？みたいな目で、作業しているあいだずっと見られていることはたまにあります。でも逆に、『女の人に来てくれると思わなかった』と喜んでもらえることもあるんです。お客様のスペースにお邪魔するお仕事ですから、女の人の方が安心と思われるお客様も多いようで。ただ、どうしても重いものを持ったり、力が必要なことも多いので、女性に不利な部分もあります。幸いうちの会社ではよっぽどのことがないかぎり、二人一組で現場に伺うことにしているので、そういう場面ではバディになった男性に頼らせてもらっています。

困るのはやっぱりトイレですかね。元請けさんが大手だとまれに男女別に設置してもらえることもあるようですが、まだまだ現場に仮設トイレが一つだけ、というところが多く現場に出るときは、近くのコンビニをチェックしておくのがすっかり習慣になりました。休憩室が禁煙になっていなかったりするものも使いづらいので、改善していくといいなと思います。

—社内ではどうですか？

女性だから、ということでもないですが、皆、お客様とのお約束を調整して自分で休日を取れるようにできますし、男性と同じように名古屋や浜松といった遠くの大きな現場の仕事にも出させてもらっていますし、ハンデは感じないですね。

現場に出始めて一番印象に残っているのは名古屋の仕事でしょうか。ホテルの分電盤工事の仕事だったのですが、朝暗いうちに家を出て現場へ向かい、日中は電気を止めた真っ暗なホテルの中で作業し、現場を出て帰宅するのは陽が落ちた後。太陽の光を見ないことが1ヶ月続いて自分はとても辛かったのですが、反対に先輩の皆さんに対して、こういう仕事もしてたんだな、黙々とこなしていて立派だなと思って、尊敬しましたね。

西村さんがアレンジしたイルミネーション



—仕事の中で、自分らしさを発揮できる部分、というのはありますか？

お客様から見積りを依頼されたときは、3日以内で出すようにしています。性格がせっかちなんで（笑）、自分がお客様だったら待たされるの嫌だと思うんですよ。もう少しゆっくりでもいいのかもしれないですけど、だからこそ、もし、その点でお客様に喜ばれているとしたらありがたいことですね。

—今後の展望について伺ってもいいですか？

実は電気工事士の資格を取ったあと、建設業経理士の資格も取ったんです。現場の業務には関係ない資格ですけど、手をつけていただけということで（笑）。これから取り組みたいのはJw-cadです。今は自分ではできないので社内の設計担当の方に図面をお願いしているんですが、そうするとどうしても待ちの時間ができてしまいます。自分でできれば待たなくて済むし、お客様をお待たせする時間も短くできると思うから。

昔は生活のため、稼ぐために仕事していましたが、とにかく今は勉強して、知識をつけて、よりたくさんのお客様を笑顔にしたいな、と思っています。このまま、できるだけ元気に働けたら幸せだな、と思いますね。

—ありがとうございました。

ここまで社内であたった一人、「女性の電気工事士」というポジションを切り拓いてきた西村さん。クリスマスシーズン、毎年会社の外観を彩るイルミネーションも西村さんの発案だそう。西村さんの前向きなチャレンジはまだまだ続きそうです。

MIIZUNO Yuri



蒲郡の新しい魅力を発信！
ベンチアートプロジェクト



自分の力を活かせるかどうかは自分次第。
仕事は自分を成長させるチャンス。

蒲郡商工会議所 中小企業相談所
指導管理課 補助員

水野 祐利 さん

—どのようなお仕事をされていますか？

入所して最初の一年は総務課で、主に観光の職務を担当し、蒲郡の観光事業者様との関わりをはじめ、広域連携で市外の商工会議所と一緒に連携した業務を経験しました。

また、商工会議所に届く文書管理の担当等、組織の中のことを覚えながら仕事をしていました。翌年に中小企業相談所へ部署移動してからは、観光担当も継続しつつ、創業支援、商工会議所の広報等関わる分野が増え、多岐にわたる業務をこなしています。その他にも、地域活性化やまちづくりにつながる仕事を経験しています。まちの発展に向けたプロジェクトを実装するシティセールス、SDGsをはじめとする循環型経済の実現に向けたサーキュラーシティ推進等、蒲郡市を中心とした新しい取り組みにも参画しています。

仕事内容は基本的に男性職員と同じで結構知識も体力も必要なんですけれど、その分やりがいはいっぱいあります。

以前、サーキュラーシティ蒲郡の実証実験事業で、とある企業のアップサイクル事業を半年間ほど伴走支援させていただいたんです。その最後の成果発表の際に、「水野さんがいたから頑張れたよ」と言ってもらえて、頑張る理由になれたのは特に嬉しかったですね。プロジェクトを終えた時に、一緒に仕事をした事業者様から笑顔で感謝していただけるのは自分も頑張れる理由になっています。

—印象深かった仕事を教えてください。

市の特産品を活かしたクラフトビールの開発に携わらせて頂いたことです。ネーミングとデザインを担当させてもらったんですけど、その時はデザインを考えることはあまり意識していなくて、特に関わる人と距離を近くすることを意識していました。事業者様と密接に仲良くなりたかったというのがあって。仲良くなると仕事もしやすいですし、アイデアもたくさん出てくるんですよね。新しい支援の仕方を自分で見つけることができた仕事だと思います。

あと、一緒に仕事をした事業者様が会議所に興味を持ってくださった。それまではあまり知らなかったらしいんですけど、私を通して知ってくださって、サービスも利用していただいたんです。全体に業種間の橋渡しが出来たこと、会議所に目を向けてもらったことで本当にいい機会だったな、と印象に残っています。





仕事は自分を成長させる
ライフワーク！

—デザインのお仕事もされるのですか？

はい、大学時代はデザインの勉強をしていたんです。クラフトビールの開発の際は、その繋がりでお声がけいただきました。何かを作るというのはもちろんですが、「デザイン思考」という問題や課題を発見して、その解決の手法を考えるということも学んでいました。その経験もあって、私は作るだけがデザインだとは思ってないんです。社会を変えるだったり、仕組みを変えるだったり、ビジョンを立ててそのために実行する、みたいな。今の自分では手のつけられない部分もありますが、人と一緒に何かに取り組むときは、できるだけこの考え方を共有してアドバイスするように意識しています。とにかく学んできたことを仕事に活かしたい、という思いはずっと強いですね。

—今の仕事を選んだ理由は何ですか？

大学の卒業制作がきっかけです。大学4年生の時、「地元」というフィールドに興味を持ちました。それで、卒業制作で市民参加型のワークショップを自分で企画し、蒲郡で実行したんですけれど、その際に会議所の方から求人のお話を教えていただいて。就職を機会に県外に出ようと考えていたんですが、このワークショップでの縁をこのまま終わらせていいのかなって正直心残りがあったのも確かです。蒲郡のために何かしたいという思いも深くなって、採用試験を受けたんです。

—ご自分の能力を仕事に活かせていると感じますか？

コミュニケーション力やプレゼンテーション力を活かせていると思います。仕事のやり取りをするお相手様が社長さんであったり、役職のある方が多いんです。やっぱり初めてはどうしても怖気付いちゃうじゃないですか（笑）。会議も自分で開くんですけど、難しいなって。でも、私は話すことが苦じゃないし、むしろ向いてると思っているので意外と楽しくお話しできているのでは、と思います。司会を任された時にはカンペを見ずに話すことができる、というのも自分のスキルが活かされているという実感がありますね。

—今後、やってみたい仕事を教えてください。

繊維関連の担当に興味があります。地元の特産品である三河木綿を中心とした繊維産業に携わる仕事がしたいです。事業者様と一緒に会議所として何か出来たら蒲郡の伝統ある特産品して注目してもらえるのでは、と思っています。もちろん繊維だけに限らず、いろんな業務を短いスパンで回していくことでいろんなアイデアと変化が出てくると思っています。なので色々と体験してみたいです。

—最後にあなたにとって「仕事」とは？

自分を成長させてくれる機会だと思って。以前、「仕事はライフワークだと思って頑張ってみてね」と尊敬する人に言われたことがあって。ライフワークって聞くと人生の中で頑張る！みたいになると思うんですけど、そうではなくて、仕事は「自然とやるもので人として成長できる機会」だということ。それが大切なんです。頑張っているとどうしても疲れちゃう時はあるんですがそれを仕事（だから辛い）って決めつけるんじゃなくて、自分自身のチャンスと思うと、心も軽くなって今も楽しく仕事できています。まちのために働くってこういうことか、って。

あとは、仕事は楽しみながらできるといいなと思うので人生設計も大切だと思います。私は結婚も出産も女性ならではの人生における楽しみの一つだと思っています。仕事だけではなく人生設計を具体的に考えてみるとより楽しいと思えるんじゃないかな、と思いますね。

—ありがとうございました。

自分の能力を活かして、常により良い変化を追求する水野さん。仕事はチャンスだと笑顔で毎日を楽しむ姿勢こそ、素敵なアイデアを思いつく秘訣なのかもしれません。水野さんの今後の活躍に注目です。

